

国際学院新聞

第62号

(編集発行) 国際学院
学校法人

〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
<http://www.kgef.ac.jp/>

主なニュース

- 災害食講座、第IV期中期計画、論説 …… 2面
- 幼児絵画展・味彩コンテスト開催、実習報告 …… 3面
- 中国の中学・高校が来校、部活動報告 …… 4面
- ベトナム料理講習会、世界異文化化学習会 …… 5面
- 体育大会・体育祭、五峯祭、研修旅行 …… 6面
- ホームカミング講座、学生会・生徒会活動 …… 7面
- 卒業生近況報告、ベストブック …… 8面

国際学院 創立56周年記念講演会を開催

講師にパラリンピアンの高桑早生選手

12月11日の国際学院創立56周年記念講演会は、市出身のパラリビアンである高桑早生選手（NTT東



高桑早生選手 (©岸本剛)

日本所属) を講師に迎え開催する。

高桑選手は、100m、200m、走り幅跳び等の陸上の種目で、2012年のロンドン・パラリンピックにおいて、100m・200mで7位、続く2016年のリオ・パラリンピックにおいては、走り幅跳びで5位、200mで7位、100mで8位という成績を残している。さらに直近



講演では、「パラリンピックの挑戦を通して感じることと未来」をテーマに講演を頂く。

東京2020パラリンピック競技大会は、2020年8月25日～9月6日までの13日間、東京を中心に21会場で22競技540種目が開催される。この大会でも、高桑選手のさらなる活躍が期待されている。

高校サッカー部活動報告

埼玉県大会で第3位



高等学校のサッカー部は、第98回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県予選会

決勝トーナメントに進出した。11月2日に駒場スタジアムで開催された準々決勝において、埼玉栄高校に3対1で勝利し、準決勝に進出した。続く準決勝は、11月10日、Nack5スタジアムで開催され、西武台

高校に2対1の僅差で惜敗したが、高等学校サッカー部は第3位となる好成績を残した。

今大会を振り返り酒井宏治監督は、「今大会では二度の全校応援をいただき、皆さんの声援の中で試合ができたことに感謝いたします。」

サッカーは足でボールを扱うためミスが多くなるスポーツです。そこで大事なことは基本技術の反復、チーム戦術の確立、そしてミスを如何にかバーして次のプレイに繋げるかです。

日々のトレーニングの中で、同じ事の繰り返しをただ反復するのではなく、その場の状況にあわせて判断すること、常に意図的に動くことを求めています。その成果を試合の中で発揮することができました」と、感謝とともに日々のトレーニングの大切さを語った。

UNGO-SDGs推進の取組

貧困や環境問題解決へ 自分の出来ることから行動

学校法人国際学院は、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に署名し、平成30年12月にグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)に加入した。国際学院の各校は、UNGC並びに持続可能な開発目標(SDGs)の理解を深める中で、それぞれの特色を生かし貧困や環境など地球規模の諸課題解決に向け、まず、自分ができるところから行動すること、念頭に取組んでいる。

短期大学の取組

短期大学2年間の学修成果の集大成として位置付けられてきた卒業研究(2単位)を、1年次にチュートリアル形式及びゼミナール形式を取り入れた卒業研究プレ

ゼミ(1単位)として開設し、2年次の各研究班(ゼミ)で先行研究している2年生との交流を図るとともに、2年次の卒業研究ゼミ(2単位)で各自が本格的に研究に取り組むこととした。その際、各ゼミの研究テーマをSDGsの17目標、169のターゲットと関連させてゼミ単位で研究を進めることとしている。

中学・高校の取組

中学校高等学校では、ユネスコスクール加盟を機に地球規模の問題に対する国連システムの理解や人権、民主主義の理解と促進、異文化理解、環境教育の4つをテーマとしたESD(持続発展教育)に取り組んできた。こうした中、インドネシアをはじめとした6カ国から生徒等を受け入れる一方、シンガポール等の12か国に生徒を派遣し、異文化理解や国際感覚の習得

現在、短期大学では、これまでのペットボトル等のキャップを収集し、リサイクルで発生した利益を発展途上国の子ども向けワクチン代として寄付する「キャップの貯金箱」運動や使用済み切手や使用済みインクカートリッジ、書き損じはがき等を収集し、公益財団法人ジョイセフに寄贈することとで開発途上国で推進する妊産婦と女性の命と健康を守る活動に貢献する取組みを始めている(SDGs目標3)。

UNGO-SDGs推進の取組

また、SDGsに関する意識調査を五峯祭の来場者を対象に実施し、その認知度は、「SDGsの存在を知らない」が約6割を占めた。また、SDGsに関する意識調査を五峯祭の来場者を対象に実施し、その認知度は、「SDGsの存在を知らない」が約6割を占めた。

さらに、実践的な活動としては、「キャップの貯金箱」運動に参加し、ペットボトルのキャップ回収を実施して、78人分のポリをワタチン購入費用に充当することができた。(SDGs目標3・10・17)

GNJ分科会への参加

GNJが主催する基礎ゼミナールや環境経営分科会、GCの社内浸透研究分科会、人権教育分科会、防災・減災(DRR)分科会、SDGs分科会、レポートイテイング分科会の6分科会に10名の教職員が参加し、GC並びにSDGs推進に資する知見を広めている。

照 敦

研究室のベランダに小さな鉢を6つ置いたのは半年ほど前。鉢も、土も、通気性をよくするために敷いた

「ネコよけマット」も、すべて「百均」で購入。問題は鉢の身。昨年10月下旬、短大の事務室で「花梨」が配られた。伊奈キャンパスで実った花梨のお裾分け。事務室に花梨のいい匂いが満ちていた。一番大きくて、一番色艶のいいのをいただき研究室に。おかげで、年内いっぱい、甘い匂いを楽しむことができた。▼仕事納めの日、熟した実から種を取り出し、水にさらして年越し。陽ざしが暖かくなってから「百均」セットを準備し、4月25日種まき。この日から、水やりが毎朝の日課となった。まだ発芽しない、やっぱり芽は出ないのだろうか、何だか私と似てるなあ。いらぬことまで考えながらそれでも水をやり続けること1カ月。5月27日、一つの鉢に小さな芽が出た。花梨の芽か?雑草の芽かもしれない。だが雑草としては立派で、由緒ありげ。やがて他の鉢からも同じような芽が出てきて、不安と期待は確信に変わった。▼今、6つの鉢を背の高い順に並べてある。一番背の高いのは70cmを越えるほど。やがて枝になるのだから、脇芽も伸びてきた。あんな小さな種粒が、よくもまあ生長するものだ。▼学生も、毎朝の水やりだけで成長してくればいいが、そうはいかない。この苗木に花が咲き、花梨がなるまで生長したいものである。

短期大学 公開講座等を開講

災害食講座 に82名参加

ポリ袋を使った調理法を習得

社会からの要請や地域住民等のニーズに基づき、テーマを決定し、短期大学では、開学2年目の昭和59年から開講してきた公開講座は、今年で36年目を迎える。

令和元年度は、6月の「パン作り」にチャレンジみんなで作るパン講座に始まり、全体で12講座を開講する。

特に今年度は、これまでの受講者アンケートで開講の希望が多かったテーマとして前出の「パン作り」の講座や「そば打ち入門」の講座を新規に開講するほか、短期大学学科の特性に鑑み、さいたま市委託公開講座として市の要請に応えた「子育て力パワーアップ講座」や「こどもとおとなの栄養学」



災害食講座（調理実習）

この災害食の講座は、一般社団法人危機管理教育研究所のメンバーで防災キッチンングアドバイザーや災害食アドバイザー、食品ロスアドバイザーの資格を持つ鈴木佳世子氏を講師に迎え、11月16日に開催した。受講者は一般公募の34名と短期大学の受講希望学生48名の合わせて82名で、講義60分、調理実習60分の内容で実施した。

この災害食の講座は、一般社団法人危機管理教育研究所のメンバーで防災キッチンングアドバイザーや災害食アドバイザー、食品ロスアドバイザーの資格を持つ鈴木佳世子氏を講師に迎え、11月16日に開催した。受講者は一般公募の34名と短期大学の受講希望学生48名の合わせて82名で、講義60分、調理実習60分の内容で実施した。

論説



我が国の社会構造は、高度情報化の進展、国際化、少子高齢化の進行等により、近年、急激に変化してきている。このような時代に何よりも大切なことは、人材を育てる教育である。

学校法人国際学院では、建学の精神のもと、人間教育と実践的な専門教育に重点をおいた「人づくり教育」に力を注いでいる。今後も、それを

実現するために組織としてのパフォーマンスの向上を絶えず目指し、教職員一人ひとりが高いモチベーションをもって仕事

高等学校は、生徒を共に育てるパートナー

「人づくり教育」に力を注ぐ

この改革は、「学力の3要素」である①知識・技能の確実な習得②知識・技能を基にした思考力、判断力、表現力を持つ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成・評価するためのもので、高等学校まで培った力をしっかりと生かすこと

各大学が実施する入学者選抜においては、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

鈴木講師から、災害時は特に気持ちに元気にする食事が必要で、最低1週間分を備蓄する必要があること。また、その内訳も長期保存食で3日分、残りの4日分は冷蔵庫等にある普段食べているものが好ましく、備蓄するものは、絶対に食べられるおいしいものである必要があることの説明があった。

このほか、平成7年の阪神・淡路大震災の自身の被災経験や平成28年の熊本地震の際に復興支援にあたった経験等から、防災マイポーチとして、常用の薬や携帯電話のバッテリーを常備し、通帳はフラスナー付き食品保存袋に入れて保管しておくこと、さらに懐中電灯には蛍光灯タイプを張っておくと停電時にもすぐに探せる等のアドバイスがあり、受講者はしきりにメモをとっていた。

習は、「サバ缶とトマトのカレー」と「だし巻き卵」「ごはん」を耐熱性のポリエチレンの袋を用いて調理する方法を学ぶ内容で、一つの鍋で同時に調理ができ、災害時に確保が困難となる水も使い回しができる、衛生的でこみの発生も抑えることができるなどの説明があった。参加者は、ポリ袋で作った出来立てで熱々のカレーを災害時を想定し食していた。

「食育士」養成講座 今年も公開講座として開講 文部科学省の委託事業でカリキュラム開発した「食育士」養成講座は、昨年度から農林水産省の補助金を活用した公開講座の形態で開講し、本年度は28名の受講者を迎えスタートした。

短期大学同窓会は、7月の総会で本年度の事業計画を定め、11月の五峯祭に分科会毎にテーマを定めて参加した。内容は、つくし会による「キッズスペース」と「つくしんぼパーティー」、あ

格者には「国際学院埼玉短期大学認定食育士」として内容の修得評価を行い、合認定証が授与される。

特に、「遊び・学び・触れ合い」と題したキッズスペースでは、風船のプレゼントや小さい子どもが安全に遊べるプレイコーナー等があるほか、ベテランの保育士、栄養士、調理師がコシエルジェとして、子育ての悩みや料理、食事についての相談に応じ、豊かな経験に基づくアドバイスに、来場者からは感謝の声が届いていた。

「人づくり教育」の更なる推進目指して 第IV期中期計画を策定

本学院は本年3月、令和5年までの5年間に期間とする第IV期中期計画を策定した。今後、この計画の下、KGブランド確立に向けた取り組みを加速させる。

教育環境をめぐる変化は加速度を増してきており、また、本学院においても短期大学の学生生徒募集状況に起因する財務見通しの変化、UNGC加入、大宮キャンパスの再開発の動き等、3年前の計画ではもはや

に必要となる資質・能力が求められる入学者選抜として「大学入学共通テスト」が新しく導入される。現行の「AO入試」や「推薦入試」は、各大学の基準に基づいて実施しているが、「知識・技能」や「思考力、判断力、表現力」を問わない性格のものとして受け取られ、入学後の大学教育に円滑につなげられないとの指摘もあり、「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」では、調査書等のほか各大学が実施する評価方法（大学入学共通テスト）、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技などから、一つ

年度までの5年間に期間とする第IV期中期計画を策定した。今後、この計画の下、KGブランド確立に向けた取り組みを加速させる」と整理。さらに、中期的視点に立つて取り組むべき目標を、「教育の質保証と研究活動の推進」、「学生支援」、「ガバナンス強化」、「G・SDGsの推進」、「国際学院「教育の質向上」プロジェクトの推進」、「ナレッジ・ビレッジ（さいたま国際知識村）構想」の6つを基本的方向とし、その実現に向けた25の柱と28の具体的方策を定めた。この中には、留学生等の受入れの促進、研究活動推進のための個人研究費制度の創設、ガバナンスコードによる経営マネジメントと内部統制システムの強化、SDGs17目標達成に向けた取組みの推進などが新たな取組みとして掲げられている。また、加盟したグローバル・コンパクトに係る取組として掲げている「G・SDGsの推進」において、卒業研究ゼミにおける研究テーマとしての具体的な取組や中学校高等学校における持続発展教育（ESD）のさらなる深化への取組

キャンパスを核とした再開発計画の構想に着手している。本計画では、これを「ナレッジ・ビレッジ（さいたま国際知識村）構想」として、大宮キャンパスを中心に、多様な人が集い、創造し、交流し、共有する場であるエリアづくりの実現に取り組んでいる。いずれ、構想の段階から具体的な内容へと進化していくが、併せて、本学の特徴を生かした新たな教育の展開も先行して進められており、今後、KGブランドの全国に向けた発信に繋がること期待される。

財務情報

決算総額約36億円

平成30年度の決算概況をお知らせします。

資金収支計算書では決算総額は約36億円となり、収入の部では、学生生徒等納付金収入は前年度並でした。支出の部では、伊奈キャンパステナイスコート

場施設工事等教育施設整備を行いました。全体では対前年度2億1500万円減額となりました。また、事業活動収支計算書では、教育活動収支は1億4000万円の黒

字、教育活動外収支は1400万円の赤字となり、経常収支差額は1億2600万円の赤字となりました。

貸借対照表では、「資産の部合計」は、124億1600万円、前年度末と比較し2億9100万円減少しました。「基本金」は、1号基本金が3億2800万円、2号基本金が2000万円増加しました。以上の結果、「純資産」は、93億4600万円となり、前年度末と比較して、1億2600万円増加しました。

詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。

針を踏まえた入学者受け入れの方針に基づき、高等学校教育で学んできた「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものであり、これまでの入学者選抜としての特性をより明確にする観点から、「一般入試」を「一般選抜」に、「AO入試」を「総合型選抜」に、「推薦入試」を「学校推薦型選抜」に変更することとした。また、高等学校の授業スタイルは、一方向型授業からアクティブラーニングの視点で授業を改善していくこととされており、新しい時代

最後に、国際学院埼玉短期大学は、高等学校と同じ教育機関としての立場で連携を図っていくことが大事と考えており、共に学生を育てていくパートナーとして、これまで培った力をさらに発展させ、予想困難な社会で答えのない問題に自ら答える力を身につけられる学生に育てていくことを目指している。このような取組を行うことによって、地域に密着した短期大学としてさらに発展していくものと考える。

学長補佐 戸松 幹孝

第34回 幼児絵画展を開催

96園・所から 881点の応募 最優秀作品賞など15の賞選出

本学の大学祭である「五峯祭」に合わせ、11月9日(土)、10日(日)の両日、多くの来場者を迎えて幼児絵画展が開催された。昭和61年に第1回を開催して以来、今年で34回目となる幼児絵画展は、幼児の表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的としている。今年度は、埼玉県内の幼稚園・保育所・こども園、計96園から881点の応募があり、会場には子ども達の豊かな表現が光る絵画の数々が展示された。

画展は、幼児の表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的としている。今年度は、埼玉県内の幼稚園・保育所・こども園、計96園から881点の応募があり、会場には子ども達の豊かな表現が光る絵画の数々が展示された。

審査は、幼児の表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的としている。今年度は、埼玉県内の幼稚園・保育所・こども園、計96園から881点の応募があり、会場には子ども達の豊かな表現が光る絵画の数々が展示された。



表彰式の様子

本絵画展に向けた審査会は10月12日(土)に開かれ、石原進審査委員長をはじめ、学外の先生方、並びに学内の審査委員によってすべての作品が厳正に審査された。審査の観点は「こころがよし(個性が溢れているか・心がこもっているか・画面に描かれているか・喜びにあふれているか・焦点がはっきりしているか)」の5点であり、最優秀作品賞、賞等、15の賞を選出した。また、幼児絵画展の準備・運営は教職員と幼児保育学科の学生が担当している。学生は絵画の額装、折り紙での手作りメダル制作、展示会場装飾などに携わっているが、折り紙での制作や会場の装飾は、保育者として身に付けたいスキルでもある。また、この

準備は実際の子どもの絵に触れることができる貴重な機会であり、個々の表現の違いや良さに気づくことができる大きな学びの場になっている。幼児絵画展と同日に開催された表彰式では、多くの子ども達や保護者の皆様をお迎えすることができた。表彰される際は緊張した様子だった子どもも、受け取った賞状を携えて保護者のもとに戻ると嬉しそうに笑顔を見せるなど、和やかな雰囲気の中で式が進んでいった。自分たちがつくった折り紙のメダルを笑顔で渡す将来の保育者となる学生、表彰される様子を嬉しそうに記録に収めようとする保護者の皆様、そして誇らしげに賞状を受け取る子どもたちの様子がみられ、今年度の幼児絵画展も笑顔に満ちた2日間となった。

第27回 味彩コンテストを開催

県産食材生かし28名が腕競う



審査風景

令和元年9月1日(日)に、第27回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び、同窓会「あすなろ会」・「けやき会」、後援団体として、関東農政局、埼玉県、さいたま市を

はじめ、他7団体と、11協賛団体の協力を得て開催した。本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして、平成5年から開催されている。昨年同様、課題は、埼玉県産の鶏卵や野菜

と黒豚(高校の部は国内産豚肉)を使用して、一般の部は「ごはんにあう彩り主菜料理」、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生のバランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は322名(一般の部172名、高校の部150名)であった。この中から、事前に第一次審査(レシピ審査)を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査(調理・試食審査)に臨んだ。

学内外の審査委員によって、一般の部は40分間、高校の部は60分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品賞は、一般の部では、分須智恵さ

ら、「彩り野菜のチーズカレールー風味」が、高校の部では、越谷総合技術高等学校2年の金田菜愛さんの「埼玉野菜のおおばーく、和風味噌仕立て」が選ばれた。

また、今回も農林水産省関東農政局消費・安全部消費・安全管理官の鶴岡佳則氏から、参加者向けに講演を頂き、大変好評であった。

味彩コンテストの様子には、9月3日付けの埼玉新聞にも掲載され、その意義や内容を広く埼玉県民の皆様に紹介して頂いた。最優秀作品は短大の五峯祭において、「彩り亭」のメニューとして多くの来場者に披露された。

私は8月19日から10日間、日本赤十字社さいたま赤十字病院で実習させていただきました。

実習では、NST回診見学、VE見学(嚥下内視鏡検査見学)、栄養指導見学など多くの場に参加させていただき、これらの実習を通して、改めて食事が人に与える影響を実感しました。

食事制限のある患者様にとって、食事はとても重要であり楽しみの一つです。そうした患者様に対する個

教育実習を終えて 人間関係に恵まれた実習

幼児保育学科2年C組 中島 百音



私は今年9月2日から20日までの14日間、上尾市にある原市文化認定こども園で実習をさせていただきました。この園は今年からこども園になり、新しい環境の中で保育者同士が協力していたのが印象的でした。保育者の方はみんな優しく毎日の反省会の時に質問に対して親身になって答え

てくださいました。ご指導、ご助言もいただき、必ずいくつか良い点を指摘していただき、実習が苦にならない

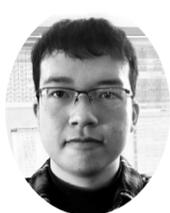
ことができました。この園には4人の国際学院出身者がいました。この4人の方には沢山声をかけていただき実習での不安なことなど相談すると「大丈夫だよ」「私もそうだったよ」などと言ってくれたり、本当に心強く感じました。

そのおかげもあり、責任実習を大きなトラブルなしに行うことができました。今回の実習を通して学んだことや反省点を残りの学校生活でさらに深く学び、保育者として現場に出た時に活かしていきたいと思

います。ご指導いただいた皆様に感謝申し上げます。

保育実習を終えて 保育者への思いより強く

幼児保育学科2年C組 本多 優汰



私は8月19日から30日までの10日間、保育園で実習をさせていただきました。ブロック、おままごとなど子どもの目線に立った遊びを通して一人ひとりへの声を掛けの大切さなどを実感することができ、充実した実習となったと感じています。

責任実習では紙コップを用いたけん玉の製作を行いました。作られた指導案での予想を超えた子どもの反応があり、対応に迷って

しまう場面がありました。今後現場に出るにあたって、もっと保育の引き出しを増やすことで子どもたちに柔軟に対応できるようにしたいと思っています。

また、朝の会、帰りの会などでピアノを弾く際は、曲に集中するあまり、子どもたちの様子を充分に見ることができず、弾き歌い課題が残りました。今回の実習を通して、自身の課題が明確になったとともに、「保育者になりたい」という思いをより強く

児童養護施設実習を終えて 子どもの自立支援にやりがい

幼児保育学科2年C組 山田 彩乃



私は、施設への就職を希望しており、乳児院と児童養護施設で実習を行いました。

大学の授業で施設の実態や子どもたちの様子を学んでおり、関わり方を理解していたつもりでしたが、教科書通りの対応だけではうまくいかないことを実感させられました。

実習中は、子どもたちと一緒に料理の盛り付け、食事、年齢に合った遊び、宿題の指導、洗濯、掃除、洗

校外実習を通して学んだこと 連携の重要性和対話の大切さ

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 田中 未来



別対応の食事は少しのミスも許されません。複数人の栄養士が配膳内容を何度も確認する姿を見て、病院における食事の重要性を改めて感じました。

毎日、患者様の食事について栄養課内で情報共有し、病棟や多職種の方々と調整される姿を見て、毎日提供される食事にはたくさんの方々の思いが込められているのだと感じました。

校外実習を終えて、多職種との連携を図りながら業務を進めていく重要性、コミュニケーションの必要性を学びました。この経験をこれから生かしていきたいです。

私は1年次の2月7日から27日の20日間、東京都千代田区にある株式会社帝國ホテルの調理現場で校外実習をさせていただきました。初めての校外実習だったのでとても緊張しましたが、まず一番大事なのは「挨拶・返事」だと先生に教えていただいたことを忘れずに取り組みしました。

実習では主に食材の切り物や料理の盛り付けなどを経験させていただきました。最初は何をすればいい

か、どのようにやるのか聞きながら作業しましたが、慣れていくうちに1日の動きを把握して、次は何をやるかを常に考えながら動くようになり、自分の成長を少し実感できました。

2年次になり、就職活動が始まると校外実習で経験したことをこれからも続けていきたいと思

校外実習を通して学んだこと 実習経験生かし就職内定

健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組 海老澤玲奈



私は1週間、母校である小学校で教育実習に臨みました。この実習では、多くの時間を2年1組で過ごし、授業の進め方や児童との関わり方を学びました。

さらに、各学年で給食を食べる機会を頂き、児童の様子や先生方の指導法の違いについて学びました。

研究授業は「おやつのおべ方を考えよう」というテーマで授業を行いました。前日に模擬授業を行ったことで、改善すべき点に気づ

き、その反省を活かすとともに、学習のねらいを抑え、より充実した授業を行うことができました。これらの授業を通して、低学年の児童では聞いたことや見たこと、感じたことが直接自分の意見になることを知り、学んでほしいねらいを強調して説明することや、劇を行ったり実物を用意するなど、印象に残る授業展開が大切であることを実感しました。教育実習中、指導案を何度も考え直したり、上手いかないともありましたが、児童の明るい笑顔や親身に指導してくださる先生方に支えられ、有意義な実習になりました。

教育実習(栄養教諭)を通して学んだこと 笑顔と親身な指導に支えられ

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 石坂 七絃



私は1週間、母校である小学校で教育実習に臨みました。この実習では、多くの時間を2年1組で過ごし、授業の進め方や児童との関わり方を学びました。

さらに、各学年で給食を食べる機会を頂き、児童の様子や先生方の指導法の違いについて学びました。

研究授業は「おやつのおべ方を考えよう」というテーマで授業を行いました。前日に模擬授業を行ったことで、改善すべき点に気づ

き、その反省を活かすとともに、学習のねらいを抑え、より充実した授業を行うことができました。これらの授業を通して、低学年の児童では聞いたことや見たこと、感じたことが直接自分の意見になることを知り、学んでほしいねらいを強調して説明することや、劇を行ったり実物を用意するなど、印象に残る授業展開が大切であることを実感しました。教育実習中、指導案を何度も考え直したり、上手いかないともありましたが、児童の明るい笑顔や親身に指導してくださる先生方に支えられ、有意義な実習になりました。

ベトナム料理講習会を開催

埼玉県国際文化交流協会協力のプロジェクト

学んだ料理を「五峯祭」で提供

7月17日(水)に講師のチャーン・トゥイ先生をお迎えし、東南アジアのインドシナ半島東部に位置する国ベトナムの料理を、食物調理コースの生徒名が学習した。

この講習会は、本校が2010年7月にユネスコスクールへ加盟して2011年から「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」



五峯祭でワンプレートを提供

「ト」として日本ユネスコ協会連盟の協力を得て実施しており、2012年から毎年、公益社団法人埼玉県国際文化交流協会にご協力をいただき、食を通じて国際理解学習を行うプロジェクトである。

本年度の講習会では、「チャーチン(卵蒸)」、「ヌックマムドレッシング」、「なます」、「カンヒエ(にらスープ)」、「チエーダウサイン(ココナツミルクのデザート)」の作り方を学んだ。

世界異文化学習会

「ロンビア」など9カ国参加

講義と体験的な授業を実施

毎年、世界異文化学習会を海外研究の事前学習として、国際理解教育を推進し、世界の様々な地域の文化を



学ぶために実施している。アジアやアフリカ等の地域に関する理解が浅いため、この学習会でそれぞれの地域の文化およびその背景を学び、自国文化との相違点および類似点について理解することが目的である。

今年度は7月23日に行い、第2学年全員が参加した。生徒たちは、ロンビア、モロッコ、韓国、フィリピン、モンゴル、パラグアイ、ロシア、アルゼンチン、香港の9カ国に分かれてそれぞれ学習を行った。

は、保護者をはじめとする多くの人たちに紹介することを目的として、9月14日(土)、15日(日)に国際学院中学校高等学校で開催された「五峯祭」の模擬店で、提供された。

学んだ料理のうち、デザートを除くすべての料理をワンプレートに乗せて提供。今年度は卒業生のサポートも受けながら、メンバー全員が一丸となり頑張る姿が印象的であった。その甲斐もあり2日間で250

食以上を売り上げ、大勢の方々にベトナム料理を提供することができた。

また、来場者を対象としたアンケートでは、「ベトナム料理が美味しかった」というコメントを複数頂くことができた。

このベトナム料理講習会を通じ異国の食文化に触れることは、日本の食文化との違いについて考える良い経験となり、グローバルな視野を広げる大変貴重な経験となった。

下級生が先輩を手本に成長

厳しい入試に向け確かな手応え



今年も充実した進学合宿

◆夏季進学合宿

夏季休業中の恒例行事である夏季進学合宿が8月21日から8月24日の3泊4日の日程で実施された。場所は国立女性教育会館で、第3学年7名、第2学年7名、第1学年28名の合計42名が参加した。昨年度から合宿場所を国立女性教育会館に移しているが、落ち着いた環境の中で、3泊4日の日程を全員が一生涯に取組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半の散策から始まり、90分の授業を午前2コマ、午後4コマと、朝から夜遅くまで息つく暇もなく、学習に取り組む。また、本校以外の学校も勉強合宿を行っており、自分たちと同じ高校生が、同じように学習に取り組む姿勢を見ることにより、どの学年にも良い緊張感があった。

初めて参加した1年生の生徒達は、これまで経験したことのない学習量に戸惑ったようであったが、学習にも体力が必要となることを実感できたようだ。2年生は学習に真剣に取り組みつつ、下級生に助言を行う

環境の中で、3泊4日の日程を全員が一生涯に取組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半の散策から始まり、90分の授業を午前2コマ、午後4コマと、朝から夜遅くまで息つく暇もなく、学習に取り組む。また、本校以外の学校も勉強合宿を行っており、自分たちと同じ高校生が、同じように学習に取り組む姿勢を見ることにより、どの学年にも良い緊張感があった。

など、確かな成長がみられた。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣に学習に取り組む姿勢は大変頼もしく、下級生のよい手本となった。下級生がそのような先輩の姿を見ることは、この合宿の大きな意義である。このように毎年積み重ねるが、夏季進学合宿の良き伝統として、年々発展的に受け継がれている。

学力向上に向けて熱く授業を行う教員、それに応えるように生徒の授業に臨む真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年、入試改革の影響を受け、厳しい入試が予想される中でもしっかりと進路結果を生む土台が出来たと確信している。

◆夏季英語合宿

令和最初の英語合宿で次なるステップへ

今年度も恒例の夏季英語合宿が、7月29日から2泊3日の日程で嵐山町にある国立女性教育会館において実施された。

この合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。昨年度からGTECにもスピーキング試験が加わったため、その対策も盛り込まれた。

参加生徒は中学生25名及び高校生25名の総勢50名で、英語科教員が5名、国語科と数学科の教員が4名の3教科強化合宿でもあった。その日程は時間刻みで、教科や学習内容が変わり、切り替えや適応力が求められるため、迷っている暇のない、密度の濃い内容で埋められるものであった。

典型的な1日の流れとしては、起床後、朝食後に軽いウォーキング、朝食後は英語の講習60分2コマ、昼食に続いて国語と数学の特別授業があり、再び英語の講習、その後はその日の学習内容の復習を行なった。



講習では中1から高2までリーディングとスピーキングの能力によりレベル別のクラスに分かれた上で、各分野を細分化した授業が行なわれた。基礎固めから傾向と対策へと進み、各時間小テストを実施した。復習を通じて理解を深めたことで、各生徒にとり効果的な学習となった。

引き続き、近年の重点科目であるスピーキングを学習した。これは、3、4名がチームになり一つの会話を作り上げるという、想像力・応用力が要求される活動である。この活動はコミュニケーション能力を養える活動でもあり、学校英語教育での次なる達成ステップとなる。大学受験で求められる能力が培われ、現実社会でも役に立つ英語力の基礎が身に付き、最終日には行なわれたGTEC受験対策は非常に優秀な成績を取める生徒も現れた。

学習面のみならず、他学年との交流が図れ、学校から離れた空間での良い学びの時間を過ごすことができ、2泊3日の講習を終えた後の生徒の顔は、自信が漲り達成感で光り輝いていた。

イタリア留学を終えて

人々は生き生き楽しく

3年B組 今田 光咲



私は、去年の9月から今年の7月までロータリークラブ主催のもとイタリアに留学する機会を得ました。出発前、イタリア語がまったく話せず聞き取ることが出来ませんでした。最初は、間違えることが怖くて話しかけることが出来ませんでした。しかし、時間がたつにつれてホストファミリーや学校の友達とたくさん

話し少しずつ話せるようになっていきました。

イタリアは、長い歴史がある国でもとても素晴らしい国です。また、イタリア料理は、どれを食べてもとてもおいしかったです。私にこのよう貴重な経験をさせる機会を与えてくれたロータリークラブの皆さん、学校関係者の方々、そして私の両親にとっても感謝しています。

アメリカ留学を終えて

多種多様な文化を実感

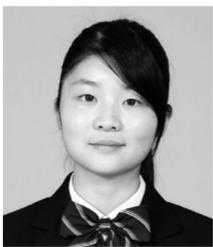
2年K組 星 楓子

私は幼い頃、インターナショナルスクールに通って来ました。生活は全て英語でした。地元の小学校に通うと英語を使う機会が減り、私はもつと英語を使いたいと思ひ、留学に興味を持ちました。また、本校は

私がこの約10カ月間学んだこと、経験したことを今後に生かして行きたいと思ひます。

アメリカ留学を終えて、多様な文化を実感しました。現地では生活するとアメリカは本当に多種多様な文化があることを実感しました。留学前の私と比べて大きく成長することができたと思ひます。

語学に限らず、沢山のことを吸収できたこの一年間はかけがえのない一生の宝物です。このような貴重な経験をさせる機会を与えて頂いたことには本当に感謝しています。また、私の留学に対し、書類作成など様々な面でサポートして頂いた先生方にも感謝しています。



この留学経験を通じ、将来は自分が通っていたようなインターナショナルスクールを設立したいと思うようになりました。今後この目標に向かって英語力の向上だけでなく様々な面で努力していきたいと思ひます。

学生生活のよい思い出に

体育大会 ・体育祭



体育館いっぱい広がるダンスの輪

ダンス参加団体増え より盛り上がる

団結しスムーズに運営

体育大会委員長

幼児保育学科2年C組 平尾 美咲

「令和」という新しい元号になって間もない5月17日に上尾運動公園体育館で体育大会を行いました。私は体育大会委員会の委員長として大会運営に携わりました。

今年度の体育大会について振り返りたいと思います。まず、良い点として、総括学生が団結して体育大会をまとめることができました。その結果、競技をスムーズに行うことができました。また、体育大会を運営する立場として、全ての学生が一生懸命競技に取り組み姿を見ることができ、嬉しい気持ちになりました。さらに、有志ダンスパフォーマンズも今年は参加団体が増え、より一層体育大会が盛り上がり、学生生活の良い思い出になりました。

中学生のダンスに声援

高校は団結賞に3年D組

中学校高等学校体育祭

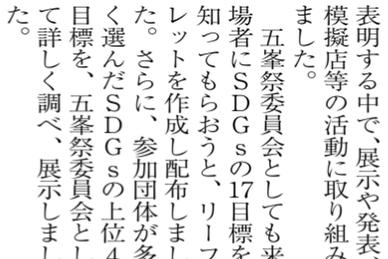
中学校高等学校の体育祭は5月28日、上尾運動公園陸上競技場において開催された。令和初となる今年度は、「Believe your mind」の新時代の頂点へのテーマのもと、各クラスが一致団結し、フェアプレー精神で競技を行った。

中学校の対抗の部では、白組が優勝を果たした。また、午後に行った演技発表においては、中学生の元気あふれるダンスに観戦していた保護者から拍手や大きな声援が送られていた。



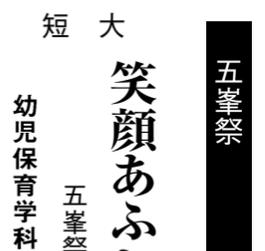
高校生の部では、学年縦割りの色別対抗戦（緑・黒・黄）が行われた。今年度は黄色組が優勝を果たした。また、最もまとまった応援を見せたクラスに送られる団結賞は3年D組が獲得し、上級生として他の模範となる行動を見せてくれた。

競技以外の面でも、今年度のテーマである信頼のもと、準備・運営・後片付けにおいて、生徒全体が一致団結して取り組んだ体育祭であった。



五峯祭は、「Just smile」をテーマに、11月9・10日に開催し、4千3百11人の来場者を迎え、無事終えることができました。ご指導いただいた先生方並びに協力いただいた各委員に心から感謝いたします。

今年度は、各参加団体が取り組む内容をSDGsのどの目標を推進するものかを



笑顔あふれた2日間

五峯祭実行委員長
幼児保育学科2年C組 角田 琴美



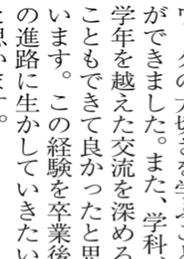
五峯祭は、「Just smile」をテーマに、11月9・10日に開催し、4千3百11人の来場者を迎え、無事終えることができました。ご指導いただいた先生方並びに協力いただいた各委員に心から感謝いたします。

今年度は、各参加団体が取り組む内容をSDGsのどの目標を推進するものかを



笑顔あふれた2日間

五峯祭実行委員長
幼児保育学科2年C組 角田 琴美



五峯祭は、「Just smile」をテーマに、11月9・10日に開催し、4千3百11人の来場者を迎え、無事終えることができました。ご指導いただいた先生方並びに協力いただいた各委員に心から感謝いたします。

今年度は、各参加団体が取り組む内容をSDGsのどの目標を推進するものかを

カナダ研修

カナダ研修実行委員長
健康栄養学科2年B組 石鍋ゆき乃

私たちは15日間のカナダ研修のうち12日間はそれぞれ1人ずつに分かれてホームステイをしました。ステイ先からは路線バスに乗ってバンクーバーアイランド大学に通い、英語の授業を受けることもありました。現地での大学生と交流することができました。

貴重な経験将来に生かす

カナダ研修実行委員長
健康栄養学科2年B組 石鍋ゆき乃

当初は自分から相手に話しかけることができませんでした。戸惑うことが多かったのですが、言葉が通じるようになるにつれてコミュニケーションの

台湾研修

台湾研修実行委員長
幼児保育学科2年A組 山口 柚花

本学では初めての取り組みとなった台湾への研修のため、重い責任と不安を感じながらの出発となりました。が、学院長先生、学長先生をはじめ、多くの関係の皆様のおかげで、実のある3日間の研修を無事終えることができました。

国内研修

国内研修実行委員長
幼児保育学科2年C組 小山 結衣

研修地の仙台では、荒浜小学校（震災遺構）の見学や幼稚園・保育園訪問、震災当時の食生活支援の講演など、東日本大震災で被災した方々の話を伺いました。

3人が異文化にチャレンジ

年齢異なる短大生と親交深める

通信制課程3学年の加藤伊織君、大山莉果さん、長須志遠君の3人は、6月6日から15日まで行われたバンクーバーアイランド大学語学研修に参加しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

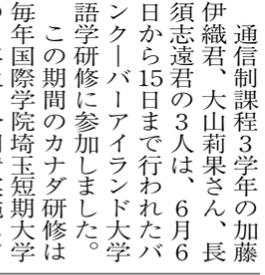
SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



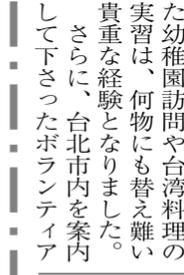
SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



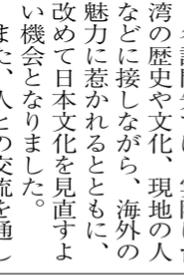
SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



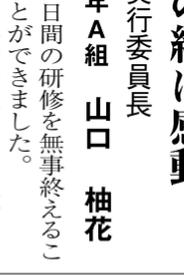
SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



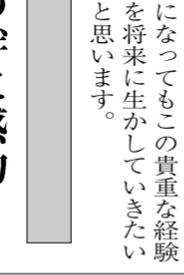
SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



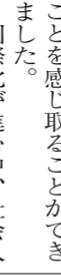
SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。



SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

SDGsをテーマに、歌やダンス、講演会と盛り沢山のプログラムを実施しました。

第2回ホームカミング講座開講

さいたま市食品ロス削減プロジェクト

食料廃棄の半減を目指す

買い方と冷蔵庫整理術を紹介

今回2回目となるホームカミング講座は、「おいしく減らそう食品ロス」さいたま市食品ロス削減プロジェクト」をテーマに11月10日、短期大学を会場に開講し、35名の卒業生等が受講した。

この講座は、SDGsの推進を掲げ教育研究活動を展開している短期大学が、さいたま市と連携して、SDGs目標12「つくる責任 使う責任」のターゲット12・3である「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させる」を推進することを目的として開講した。

講師には、さいたま市環境局資源循環政策課の三角直史課長補佐を迎え、さいたま市の1年間の食品ロスが約1万4千トンを、その6割が手つかずに廃棄された品であること。買い方と冷蔵庫整理術を身につけ、それでもあまった食材は、日曜日にスープにして食べ切ろうとする「日曜日は食べつくすスープ」の取り組み。さらに市内の6カ所に受付窓口を常設し、家庭で



三角講師の講演を熱心に聴く受講者

余った食品を地域の福祉施設に寄付する「フード・ドライブ」等について説明があった。

受講者からは、「さいたま市の具体的な食品ロス対策を知ることができ良かった」「残り物でスープを作るアイデアは素晴らしいと思う」「食品ロスを減らす努力を早速しようと思う」等の感想が寄せられた。

フード・ドライブの窓口は、五峯祭の大宮キャンパスにも設けられ、自宅からそうめんやインスタント食品等を持参し、携帯カトラリーと交換するさいたま市民の姿が見られた。

後援会支援ランチ

学食等のメニューを格安に 学生に好評、チケット完売

大宮キャンパスでは昨年の学院創立55周年を機に学生・生徒を対象に後援会支援ランチの販売を行っていた。

この取り組みは、後援会がランチ費用の一部を負担して学生・生徒に昼食を提供するもの。

7月には、食物栄養専攻2年生の「給食管理実習」で製作した「3色そばろ井」や「鰯のピカタ」、「豆腐ハンバーグ」等



後援会支援ランチ 第3弾 調理製菓専攻

さいたま市農業祭 調理学研究部が10年連続で参加

育てた「紅赤」使いメニューを考え、調理し販売



短期大学の調理学研究部は、11月16・17日の土・日にさいたま市民の森・見沼グリーンセンターで開催された「さいたま市農業祭2019」に参加した。

この農業祭は、さいたま市内で採れた新鮮な野菜や果物、植木や加工品の販売等をさいたま市内やさいたま市の国内友好都市の生産者が直接販売するもので、調理学研究部の参加は10年連続となる。

両日は、晴天に恵まれ、会場内は買い物を楽しむ多くの人が賑わった。

調理学研究部は、今年度もさいたま市緑区の農家でもある鈴木伝一さんの圃場で、さいたま市原産のさつまいもである紅赤の苗付けから収穫までの栽培を行い、前週開催した短期大学の五峯祭に続き「紅赤ザクザクパウンドケーキ」を販売した。

学生たちにとっては、自分たちで育てた紅赤を使ったメニューを考案し、調理、販売を体験することで、生産から販売までの一連の都市近郊農業の一端を経験することができる貴重な場となっている。

短期大学学友会活動報告

評価されにくい仕事に 取り組む学生を支援

学友会は、本学の教育理念に則り、会員相互の協力によって、本学の発展と会員の豊かな学生生活の実現並びに会員相互の資質向上と親睦を図ることを目的に設置されています。

幼児保育学科2年B組 中山 羽愛 学友会会長

そして私たち学友会役員は、学生がより良い学生生活を送れるように「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の建学の精神のもと様々な活動に取り組んでいます。

5月17日に上尾運動公園体育館で「人づくりを科学する 団結力をみんなで深め目指せNo.1」をテーマに体育大会が実施されました。各クラス一致団結して大会に取り組んでいた姿が印象的な行事でしたが、学友会では、「じゃんけん列車」を提案し、和やかで笑顔あふれる種目として実施されました。



学友会では、学生がより良い学生生活を送れるように「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の建学の精神のもと様々な活動に取り組んでいます。



7月には「短期大学生のためのキャリア形成講座」へ参加を呼びかけ、7名の学生が受講しました。また8月には、さいたま市タウンミーティングに参加し、学生として市長に意見を述べる貴重な機会を得ることができました。

11月9・10日には、五峯祭が実施されました。[JUST SMILE]笑顔の花を咲かせよう」をテーマに7・8日の準備期間を含め4日間で学科、クラス、部活で話し合い、試行錯誤を繰り返して取り組みました。学友会は、同窓会と協力して「ふれあい広場」に

参加しました。12月の学院創立記念行事では学生生徒活動報告を行う予定です。

このような様々な行事はこれに関わる多くの学生の努力で見えない多様な影の努力で成り立っているものだと考えています。

そして、そんな評価されにくい仕事に一生懸命取り組んでいる学生の努力を見逃さないようにサポートしていきたいと、会長に就任させて頂いたときに思いました。

高等学校・中学校生徒会活動報告

SDGs17目標の浸透 目指し新企画を展開

今年度の生徒会が力を注いだ活動は、国際学院中学校高等学校の三大行事のひとつである五峯祭の企画・運営です。

第22回五峯祭を9月14日(土)、15日(日)の2日間にわたって開催しました。今までとは違う企画やルールを追加



今年度の生徒会が力を注いだ活動は、国際学院中学校高等学校の三大行事のひとつである五峯祭の企画・運営です。

第22回五峯祭を9月14日(土)、15日(日)の2日間にわたって開催しました。今までとは違う企画やルールを追加

テーマにあった装飾をつくろうという事で校内の飾りは主にSDGsの17の目標をモチーフにしました。本館の階段の装飾は、剥がれて通行の妨げにならないように壁に貼ることをやめ、つり下げた装飾を作りました。

また、今回から新しくできた小講堂で行われた企画ステージの出演者にも協力して頂きました。初めての試みでしたが来場者の皆様は勿論、生徒もたくさん集まってくれ、とても賑やかな場となりました。この企画は来年もまた是非行えればと思います。

他にも新しく「スタンプラリー」を行いました。今年度はSDGsをテーマにしたので、来場者の方々にSDGsを身近に感じていただくような企画を練りました。シンプルルールと景品もあったことから、非常に好評でした。新しい試みだったこともあり不安もありましたが、成功できて本当に良かったと思います。

このパウンドケーキの作り方は、まず紅赤をサイコロ状にカットしてから、蒸して中まで熱を通し、同じくサイコロ状にしたクリームチーズと一緒に生地に加えてオーブンで焼き上げる。このことにより、素材の味を生かした優しい甘さに仕上げられたこと。さらに、グラノーラをトッピングし、アクセントをつけることで様々な食感を楽しめるパウンドケーキに仕上がっている点にある。

来場者からは、「毎年がんばってるね」「今年のお菓子は新作ですか」「1個買って食べてみたいとおっしゃったので、また買いにきました」という言葉をいただきました。調理学研究部の出店が、会場を訪れるさいたま市民の間に定着している状況が伺えました。

五峯祭を企画する上で大変なことがいろいろありましたが、今年の五峯祭は成功だったと思います。終了後には、「楽しかった」という声をあちらこちらで聞くことが出来ました。生徒会としても、五峯祭を経験したことがない人もいる中でお互い協力しあって、良い成果を出せたと思います。しかし、まだまだ改善できることはたくさんあります。来年度は、それらを見直して更にレベルアップしたものにできるはずだと思います。

私自身もまだまだ不慣れで、大変なことも多かった行事でしたが、しっかりとサポートしてくれた生徒会役員に感謝しています。本当にありがとうございました。

卒業生近況報告

国際学院埼玉短大平成27年卒業

時が経つにつれ増す母校の魅力

未来担う子どもも育てる仕事に誇り

こどもの森グループ保育園アミ・クレイシユ 岸田 実希



こんにちは。私は上尾市にある保育園アミ・クレイシユに勤めて5年目になります。

突然ですが皆さんは、国際学院のどんな所が好きですか。駅から近い、クラスメイトや担任の先生が居て楽しい、などの意見が多いと思いますが、私は時が経つにつれてどんどん国際学院の魅力を感じています。

は、お堅いと感じるかもしれませんが、お堅いと感じることもありませんが社会人になったらそれが当たり前です。

取り組めるので子どもの成長を心から喜び仕事のやりがいを感じられ、そして自分自身も成長できる園です。



卒業生近況報告

国際学院一貫部第一期生

勉強と遊び、本気で向き合う

自由な大学の環境に充実の日々

東京外国語大学言語文化学部中央アジアモンゴル語学科1年 富永 裕貴

私は、母校国際学院に中学時代・高校時代と6年間在籍した。その中で私が得た知見は知識を得ることよりも勉強と、自分自身が楽しむこと、つまり遊びの両立が大切であるということだ。

そのような中で自分の将来学びたいことや、やりたい事として周りに居てほしい人間のビジョンが段々とはっきりとしてきた。

学内の学び、そして学校外の人間を通じた学びも今の自分を形成する大きな一つの柱となっている。

て進学している人が多くそのような人たちから各々の興味のある研究分野や将来についての構想を聞くことは、学びが多いのももちろんであるがとても楽しい。

ベストブック

「飛ぶ教室」 高橋健二 著 講談社

いつまでも眩しい少年の心が分かる 大人であり続けたい人にお薦め



母に感謝すべきことは多々あるが、小学生の頃に『少年少女世界の文学』全30巻（講談社刊行）を与えてくれたことは、その後の私の人間形成という意味で感謝に堪えない。とりわけ、エーリッヒ・ケストナー著「飛ぶ教室」は今も開く、忘れ得ぬ一冊となっている。

小山 有一朗

国際学院埼玉短期大学 事務局長・図書館長

少年時代の繊細な感情描く

自身の人間形成に欠かせぬ一冊

代特有の繊細な感情が丁寧に表現されている。クリスマス休暇が近く寄宿学校では、少年たちが上演する劇「飛ぶ教室」の稽古をしていた。

私は「飛ぶ教室」を薦める所以は、子どもと大人が、一方的な関係ではなく相互に関係し合っていること。

私に「飛ぶ教室」を薦める所以は、子どもと大人が、一方的な関係ではなく相互に関係し合っていること。

正義先生には本当の気持ち話を話す。すると正義先生は、20マルクを手渡して、こう語りかける。「クリスマススイブに旅費をプレゼントするんだよ。返してもらおうなんて思っちゃいない。そのほうが、うんとすてきなじゃないか。」



「飛ぶ教室」は児童文学であるが、いつまでも眩しい少年の心が分かる大人であり続けたいと願う人にお薦めの本。学業や日々の仕事に忙しいけれど小説を読んで心温まりたい方、ぜひ、ご一読を。

教育振興資金(寄付金)のお願い

人材育成、施設充実へ活用

国際学院は、建学の精神等を一層進めていく必要があり、及び教育方針に基づいた「人づくり教育」を実践し、社会に有意な人材を輩出しております。

こうしたことから、多くの皆様方のご理解・ご支援を得て、教育振興資金として寄付金を募集しております。

中学校高等学校、短期大学ともに、①教育研究の充実 ②奨学金の充実 ③教育研究施設・設備の充実を目的に募集し、活用させていただきます。

近年の施設設備等教育環境の充実として、中学校高等学校の2号館新校舎の竣工、本館及びマコトホール空調設備の全面改修、テナスコート(人口芝3面)

「寄付のお願い」として掲載しておりますのでご参照下さい。

お問合せは、各校の寄付金担当まで。

また、短期大学においても、多目的コートの人工芝化、本館トイレの改修、合同教室の机・椅子のリニューアル、本館玄関のバリアフリー化(車いす用昇降機設置)等を実施しております。

今後においても、教育ICT環境整備、SDGs活動推進等の資金に充当することを計画しております。

なお、寄付金については、税制上の優遇措置を所定の手続きをとることににより受けることができます。詳細は、短期大学ホームページ(https://sage.ac.jp/)に「寄付のお願い」として掲載しておりますのでご参照下さい。